

みんなの もうひとつの おうち

No.18
2017.3.1



園舎南側の竹林の隣に畑があります。春になると耕していただいた畑の石拾いをして野菜作りの準備が始まります。

▶畑の世話を教えて下さる宮澤さんと一緒に幼児組みんなでジャガイモの種芋を植えました。芽が出てくるのを心待ちにしながら何度も足を運んでいる子どもたちでした。



初夏の頃には、年長児が畑に何を植えるか相談し、マックスバリュまで出かけ、なす、ピーマン、里芋、ミニトマト、さつまいも、きゅうりの苗を買ってきてくれました。自分たちで選んだ苗を植えるときは、「これ買ってきたなあ」とはりきっていたゆり組(年長児)です。



◀子どもたちが「育ててみたい」と選んだとうもろこしと枝豆を、種からまいて世話をしました。とうもろこしは、自分たちの背丈より大きくなり、「おおきくなったね!」と嬉しそうに成長を楽しみました。強風に倒れそうになったり、実が鳥につつかれたりしましたが、収穫の時は自分たちで育てたことに満足感一杯の笑顔があふれていました。



◀夏の暑い時期宮澤さんと一緒に大根の種をまきました。畑の畝に自分で穴を開け種を入れ「土のお布団かけてね」と教えていただき土をそっとかけ、芽が出るのを楽しみにしていました。秋の収穫時には、自分の腕より大きい大根もあり、「おおきいなあ!」と歓声があがりました。

毎日、年長児が交代で水やりや草むしりをしてくれたおかげで、今年も沢山の野菜が実り、収穫することができました。折々に野菜の生長を見たり、収穫した野菜をお釈迦様にお供えて給食に出してもらいみんなで味わいました。また、秋の親子講座では、東部農園で実った大根や里芋、さつまいもがたっぷり入った「収穫汁」をお家の皆さんと一緒においしくいただきました。「このだいこん、はたけでつくったんだよ」と自慢気に話す姿もありました。宮澤さんに野菜の世話を教えていただくことで、育てる難しさや楽しさ、そして、食べる喜びを感じた子どもたちです。今年度も、年間を通して度々保育園に足を運んで、子どもたちの野菜作りのお手伝いをして下さった宮澤庄二さんに心より感謝致します。



東部保育園の看護師さん

保育園の看護師さんは、子どもたちが元気に過ごすことができるよう見守り、毎日お世話をしてくれます。東部保育園の奥山裕子看護師に聞いてみました。



～保育園の看護師さんはどんなお仕事をされるの～

保育園の看護師は、子ども達への衛生面の指導や、保健だよりなどを通して、保護者の皆さんへ地域の感染症の流行状況、病気の予防や、生活リズムを再確認できる情報などを提供しています。子ども達が元気に過ごせるお手伝いをしながら、私自身もかわいい子ども達から元気をもらっている、ありがたいお仕事です。



今年度も、東部保育園には子どもたちの笑い声が響き合い、みんなすくすくと大きくなりました。まもなく春、24名の年長さんが東部保育園を巣立ちます。年下児をたくさんかわいがってくれ、手助けしてくれた年長さんに感謝し、新しい場所で新しい仲間と元気に過ごしてくれることを願います。「みんなのもうひとつのおうち」18号は、子どもたちの笑顔がたくさんつまった情報誌になりました。本号の発行にあたりご協力いただきました皆様に、心より感謝いたします。



園長のつらゆい
本園が、現在地に移りゆつたりとした環境の中、早6年になります。お陰さまで、子どもたちも保育者もこの園舎の生活に慣れてきて、元気に過ごしております。保護者の皆さんも、敷地内に駐車場があるので朝夕の送迎の利便さや、更に園内の広さ、冬は暖かく夏は涼しい環境の心地良さに喜んで下さっているの嬉しい限りです。さて、今年は西年ですが「果実が極限まで熟した状態」という意味があつて、そこから物事が頂点まで極まった様子を現していると言われております。この西に肖って、大自然の中で生きて生かされていることに感謝し、全ての人が身も心も一つ上の運氣を取り込めることができるように祈念いたします。そして、肝心な日々の保育を、乳幼児期の今を大切にしていこうと、子どもたちが人間として大いなる成長を遂げるように、本園では、ありがたう、という感謝の気持ちを大切にしながら、明るく楽しく元氣よく毎日の保育に活かしていくように努めていきます。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

園長 菊池道喜

こうめ組 (0歳児)

「また、あそんでね」

幼児組と乳児組の保育室が遊戯室を囲むようにワンフロアになっている東部保育園。こうめ組が遊戯室であそんでいると、名前を呼んで頭をなでてくれたり、同じ目線になってお座りやハイハイをして、「かわいい」と言いながらあそんでくれます。こうめ組の子たちも、笑顔で手をのぼしたり、段ボール車の中に入ってひもをひいてもらったりして、とても嬉しそうにしています。片づけの時間になりこうめ組の子が降りたがらないと、降りるまでつきあってくれる年長さん。それに満足して自分から降り「また、あそぼうね」と言っているかのように手を振ってバイバイします。第二の保育者となって、こうめ組を温かく見守ってくれている幼児組さん。そんな自然なかかわりの中で、のびのびと過ごし、心も体も健やかに成長している、こうめ組の子たちです。



「なかよしランチ たのしいな！」

幼児組では年少から年長組までの縦割りグループがあり、「なかよしランチ」として昼食を縦割りグループで食べています。大きい子たちと一緒に食べることで食事のマナーを覚えてもらったり、苦手な物は中々食べられなかった子どもたちが、同じグループの年上児に励まされたり褒められたりすることで自分からすすんで食べようとする姿が見られるようになりました。食べる速さはもちろん違いますが、自分たちが食べ終わるのを待っていてくれる安心感があり最後まで食べようとします。なかよしランチを始めたことで、普段の生活やあそびの中で自然に異年齢児のかかわりが多くなり、親しみを感じながら楽しく過ごしています。



たんぽぽ組 (3歳児)

うめ組 (1歳児)

「まねっこ まねっこ 楽しいな」

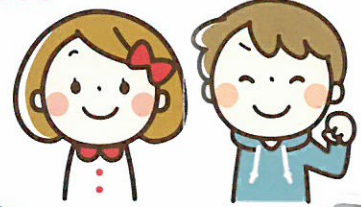
もも組とうめ組は、部屋の戸を開けてオープンで遊びます。一緒に遊ぶ中で、もも組さんのままごと遊びをじーっと見たり、同じものを持ってもも組さんの隣りにそっと座り、一緒に遊んでいる雰囲気を味わっています。また、外では、もも組さんがひろちゃん山でひめりんごやまぼうしの実を探している姿を見て、後について歩き「ここにあるよ」と教えてもらって拾ったり、手をつないで歩いてもらい満足げです。一緒に過ごすことでたくさんのかかわりを体験できて楽しんでいます。

今では、靴下がなかなか履けないでいる、こうめ組さんに「こうして履くんだよ」というように手伝いをしている姿も見られるようになりました。もも組さんから、優しくいたわってもらったことを、今度は自分より小さい子に教えてあげる気持ちが少しずつ育ち、してあげることの気持ち良さを感じているようです。



おにいちゃん おねえちゃん の あそび

東部保育園は、どの年齢のお子さんとも隔たりにく自然な関わりが持てる環境になっています。遊戯室に出て一緒に遊んだり、園庭で幼児組の子どもたちの真似をして楽しそうに遊ぶ乳児組の子どもたちの姿があらこちらで見られます。そんな環境の中、今年度は異年齢での関わりを大切に生活してきました。遊びや生活の中で、考えたり困ったりしながらも年下児のお世話をしたり、年上児を頼りにしながら手助けしてもらい、今度は自分よりもっと年下の友だちの面倒をみようとする子どもたちの姿を見ると、「異年齢での育ち合い」を十分に感じることができました。この繋がりによって、保育園が、より安心できる、楽しめがいっぱいの場所になっていることを嬉しく思います。



「大きくなるって嬉しいな」

東部保育園では、ゆり組がしてくれるランチルームの準備やベッド敷き、ゴミ集めなどの当番活動があり、今年度は12月から縦割りグループでベッド運びを行っています。ゆり組さんからベッドの運び方や、ベッドの枚数の数え方を教えてもらったり、やり方がわからないとやさしく教えてもらいました。すみれ組、たんぽぽ組の子どもたちは当番活動を一緒にすることで、自分たちも、みんなのお手伝いができる楽しさを感じグループでの仲間意識のつながりも深まっています。異年齢の友だちとのかかわりの中で、年上の友だちのやさしさを感じながら、年下の子どもたちはひとつ大きくなったときに同じようにかかわることができるのではないかと思います。友だちに教えてあげる満足感や、丁寧に教えてもらう楽しさを味わい、一人ひとりの子どもが自信を持って園生活を送れています。



すみれ組 (4歳児)



もも組 (2歳児)

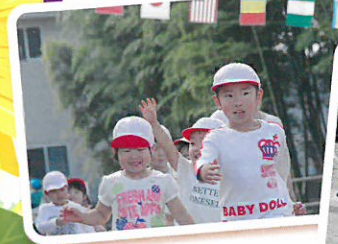
「幼児組さんへの仲間入り」

誕生会は特別な日。給食さんの手づくりのホールケーキにろうそくの火をつけてみんなで祝いします。もうすぐ幼児組さんになるもも組の子どもたち。今までは、先におやつを終えて幼児組のおやつの時間を見ていました。1月の誕生会では、幼児組さんと一緒におやつの準備を待ちました。真っ暗な部屋にあたたかなろうそくの火が灯され、ハッピーバースデーの歌を歌ってもらいました。幼児組さんにもお祝いされてとっても嬉しそうなもも組さん。長い時間でしたが、お兄さん、お姉さんの姿をじーっと見て、待つこともできるようになりました。まもなく幼児組さんの仲間入りです。



「絶対優勝するぞ!!」 ～本気の運動会での育ち合い～

今年度は初めて縦割りグループを基にして紅白のチーム編成をしました。ゆり組(年長)さんはリーダーシップをとるのに四苦八苦。最初からうまくはいきませんでした。しかし、練習の中でたんぽぽ、すみれ組さんはゆり組さんの本気さに目をみはり、ゆり組さんも年下の子に対して丁寧に教える姿が見られ、少しずつチームとしてまとまりが見られるようになってきました。そして当日。本気になって勝負し、応援する子どもたち。喜びの笑顔や悔し涙が子どもたちの本気を物語っていました。そして、勝ち負けという結果以上に、それまでの過程の中で、憧れの眼差しと可愛がる眼差しが交差した熱く、温かな運動会となりました。



ゆり組 (5歳児)

